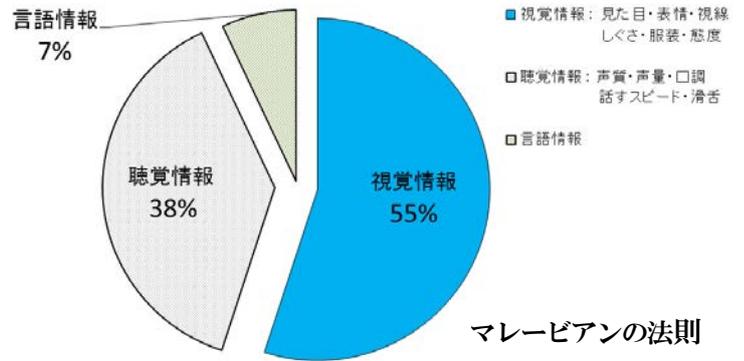




## ノンバーバル（非言語）コミュニケーション能力を高める

同じ言葉の話しても、話し手の表情や声色、しぐさによって、受け取られ方は変わるものです。例えば、先生が子供に「おはようございます」と声をかけたとします。A君は、先生の顔を見てあいさつを返しました。Bさんは、顔を上げずにあいさつをしました。Cさんは、笑顔で会釈だけしました。D君は、下を向いているだけでした。先生が受ける印象は違ってきます。言葉によるコミュニケーションばかりを思い浮かべてしまいますが、実は表情やしぐさ、口調、視線などといった言葉以外の表現も使って、人はコミュニケーションをとっています。以下に、この「ノンバーバル（非言語）コミュニケーション」について考えたいと思います。

コミュニケーションの際に、人が他人から受け取る情報は、「視覚情報」「聴覚情報」「言語情報」の3つがあります。そのどれを重視しているのかを調べたものが右図です。具体的には、怒った顔、かつ不機嫌な声で「あなたが好き」と言われた被験者が「表情」「声色」「言葉」のうちどの情報を信じるかというもので、「マレービアン



というそうです。この結果から、コミュニケーションにおいては、どんな言葉で伝えるのか「バーバル」はもちろんのこと、表情やしぐさ、抑揚などどんな語調・態度で伝えるか「ノンバーバル」が重要になることがわかります。

あいさつは、その人の第一印象を決めるという点でも重要です。「ハロー効果(やまびこ効果)」というものがあります。これは、人は最初に受けた印象が、その後も増幅される傾向があるというものです。HさんがYさんに対して第一印象をよく感じた場合、Hさんは自然と笑顔になります。それを見たYさんもHさんによい印象を持つというように、互いによい印象が増幅されていくのです。

ですから、人と接するときは先入観を持たず、肯定的にとらえて笑顔を向けると、人間関係が円滑になるように思います。その第一歩であるあいさつは、相手を受容したサインとなるわけです。

SNSなどの文字情報によるコミュニケーションが発達して、対面でのコミュニケーションの機会が減っている現在において、ノンバーバル（非言語）コミュニケーションにこそ相手との関係性を築く重要なカギがあるように思えます。子どもたちも、友だちとの関係で悩む場面が多々あると思います。だからこそ、ノンバーバルコミュニケーションを磨く必要があります。笑顔をつくる練習は有効かもしれませんが、尊敬する人に出会い、その人のそばにしていることが近道とも言われます。そういう尊敬される大人であることが、私たち教職員や保護者には求められているのではないかと考えます。

多くの出会いの中で、子供たちには非言語も上手に使って自分らしさを表現してほしいと思います。

最後に、悩んだり助けを求めたりするのはSNS上の知らない誰かではなく、身近な家族や先生、公的相談窓口であってほしいと子どもたちには強く訴えたいものです。そして、私たち大人は、非言語の中に含まれる「SOSをキャッチする力」が求められていると言えるのかもしれません。

# 学校評価(12月実施 保護者アンケート)の結果です

20項目について、「わからない」を含めた5段階評価をしていただきました。7月(12項目)と対比してご覧ください。 ※評価4,3が「肯定的回答」、評価2,1が「否定的回答」としました。(回答総数 656)

	アンケート項目	肯定 (12月)	肯定 (7月)	否定 (12月)	わからない (人)
1	お子さんは、学校に通うことを楽しいと言っている。	91.2%	93.1%	8.8%	0
2	お子さんは、学校の授業はわかりやすいと言っている。	90.7%	90.7%	9.3%	2
3	お子さんは、わからないことを自分から調べるなど、いろいろなことに興味を持って学習に取り組んでいる。	65.2%	60.6%	34.8%	0
4	お子さんは、家庭学習の習慣が身についている。	○79.6%	73.3%	20.4%	0
5	お子さんは、友だちや近所の人などに、自分から進んであいさつをしている。	75.1%	74.2%	24.9%	1
6	お子さんは、自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	◎86.4%	68.9%	13.6%	1
7	お子さんは、誰とでもやさしく関わっている。	92.8%		7.2%	0
8	お子さんの自己肯定感(自己有用感)が高まっていると感じる。	82.7%		17.3%	4
9	学校は、特別支援教育あるいは配慮を要する児童への支援に関して丁寧に取り組んでいる。	90.9%		9.1%	9
10	お子さんは、進んで(外で遊ぶなど)体を動かしている。	74.5%		25.5%	0
11	お子さんは、自らの安全(交通事故・カガなど)に気をつけて生活をしている。	91.9%		8.1%	1
12	お子さんは、規則正しい習慣(睡眠・食習慣など)が身についている。	○82.9%	77.8%	17.1%	0
13	お子さんの体力(運動量)について、特に心配はない。	◎69.1%	59.5%	30.9%	0
14	学校は、目指す子どもの姿や学校経営方針について、保護者に理解されるように努めている。	◎89.7%	78.8%	10.3%	3
15	学校は、保護者や地域の方々とともに、子どもを育てる取り組みを進めている。	86.8%		13.2%	5
16	学校は、保護者の思いや願いに対して適切に対応している。	88.8%	89.2%	11.2%	2
17	学校は、特色ある取り組みや教育を進めている。	80.2%		19.8%	6
18	学校は、子ども一人一人に適切な指導や支援を行っている。	82.7%		17.3%	1
19	おたよりやメール、学校ホームページによる情報提供は適切に行われている。	91.3%	86.9%	8.7%	0
20	学校での教育活動や対応に、一定の安心感がある。	89.0%	86.5%	11.0%	0

結果が10P以上アップした項目<◎>及び5P以上アップした項目<○>の多くは、家庭にご理解とご協力をいただいている賜物と考えます。特に、「6.自分の役割に責任を持って取り組んでいる」では、17P上昇しています。コロナ禍、平時を問わず大事にしたい一つです。そして、取り組んだ成果や課題を自分自身で評価しながら自信へとつなげていけることを望みます。また、「14.目指す子どもの姿や学校経営方針について、理解されるように努めている」でも10Pアップしたことはうれしく思います。引き続き情報共有や意見交換に努めてまいります。

一方、3、5、10、13の項目に関しては、さらに具体的な手立てを講じる必要性を強く感じます。様々な制約をもともしない、柔軟かつ意志の強い子供たちの育成のためにこれからもご協力ください。